

ハス博士・阪本祐二氏の想い出

偉人コーナーで長男の尚生氏講演

寺内町会館は1月17日に「御坊の偉人コーナー」を新設し、第一弾として大賀ハスの品種保存などハス研究に生涯を捧げ「ハス博士」として知られる故・阪本祐二氏（1925年〜79年）―元日高高校教諭―の功績を紹介。

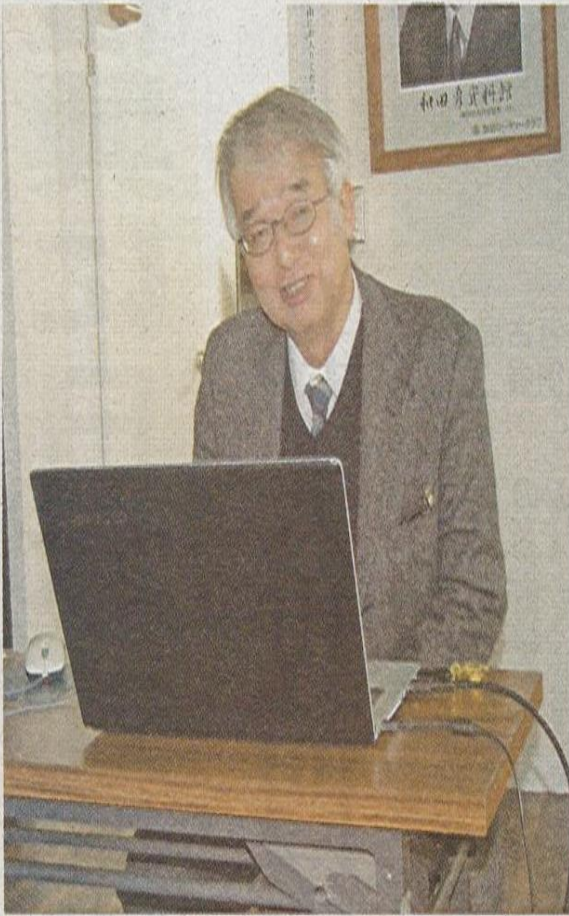
これにあわせて長男で和歌山大賀ハス保存会長、塩屋町の舞妃蓮保存会長などを務めている尚生氏（61）

―印南中学習支援助員、塩屋町北塩屋―が5日に同コーナーで「父・祐二の想い出」をテーマに講演。「気質は違ふと思うが、こだわるところは似ていると思う」と話し、祐二氏の経歴をたどりながら大賀ハスを発掘、発芽させた大賀一郎博士との交流、大賀ハス真偽論争、舞妃蓮誕生などを語った。

大賀博士との交流では「父から大賀博士の家によく遊びに行ったと聞いた。

御坊にも来たくれたことがあり、父を後継者と思ってくれていた節はある」、真偽論争では「率先して加わり、花粉の中に古いハスであることを証明する証拠を発見し、学会で発表した」、ハス研究では「品種収集と分類に努め、国内外に分根している。大阪万博日本庭園のハスはすべてうちの池から持って行った」と話し

た。また、祐二氏は舞妃蓮以外に瑞祥蓮、紅舞妃蓮、明光蓮、昭美蓮も作っており「明光蓮、紅舞妃蓮は見た目にも美しく、舞妃蓮同様に皆さんに喜んでいただけるハスになると思うので、どこかで栽培していただければなら喜んで提供したい」とも話した。



祐二氏の想い出を語る尚生氏